

⑥7 国道279号こあかがわ小赤川橋災害復旧事業

受賞機関 国土交通省 東北地方整備局 青森河川国道事務所

キーワード ドローンを活用した施工計画、孤立集落の早期解消、仮橋の設置、命をつなぐ橋

全建賞審査委員会の評価ポイント

災害により通行不能となった橋梁の応急復旧及び本復旧工事。ドローンを活用した施工計画を立案し、応急組立橋を速やかに設置することで、被災から1週間という短期間で地域の孤立解消を実現している点が評価された。

1. はじめに

令和3年8月の台風9号から変わった温帯低気圧の影響により、下北地域では観測史上最大となる雨量を観測した。

この大雨により小赤川は増水し、国道279号の小赤川橋は落橋し通行不能となった。

国道279号はむつ市と大間町を結ぶ重要な幹線道路であり、通行不能による孤立集落の早期解消のため、直轄権限代行により小赤川橋災害復旧事業を行った。

2. 事業の概要

令和3年8月9日からの大雨により8月10日に小赤川橋が落橋し、翌日から国土交通省東北地方整備局のTEC-FORCEが現地に入り、被災状況や仮橋設置のための調査、地元や関係機関との調整を行った。8月14日から仮橋の設置工事が始まり8月17日に設置が完了し、緊急車両等の通行が可能となり、9月2日から一般車両の通行が可能になった。

その後、橋梁復旧のための迂回路を上流側に設置し、令和4年6月20日に迂回路へ交通切替えを行い橋梁復旧工事に着手し、令和5年3月8日に新しい小赤川橋が完成した。



被災後の仮橋設置完了状況

3. 事業の成果

被災後からの孤立集落の早期解消のため、ドローンを活用した現地状況の把握や仮橋設置位置、施工方法などの施工計画を早急に立案し、仮橋を速やかに架設することで被災から約1週間という短期間で孤立状態が解消された。

仮橋の設置により緊急車両や災害復旧車両の通行が可能となり、命をつなぐ橋として安全安心が確保され、災害復旧作業の促進も図られた。

また、新しい小赤川橋完成までの間は片側交互通行を余儀なくされ、通勤・通学などの生活道路や観光客が車で利用する道路として不便な状態が続いた。橋の完成により対面でスムーズな通行が可能となり、安心して通行でき、ようやく通常の生活に戻り、今後の下北地域の観光分野にも好影響が期待される。



完成した小赤川橋の一般車通行状況

4. おわりに

災害復旧に当たって、周辺住民の方々には迂回路や作業ヤードなどの借地や約1年7ヶ月にも及んだ工事に対し、ご理解ご協力いただくとともに、道路管理者である青森県や地元むつ市関係機関の方々にも、協議や調整など迅速に対応いただいたことで早期に完成することができた。

完成した「小赤川橋」は、令和3年8月豪雨の象徴的な復旧事業として注目され無事完成することができた。今後、地域や利用者の方々に親しまれ安全に利用されることを期待している。